

**授業概要**

「保育」は、一律なものとして存在してきたのではなく、時代や国によって多様に変化してきた。保育実践の基礎となる保育の歴史、制度、思想などの基本的知識を学びながら、保育の現状や課題を理解する。計画と評価、子どもの発達、諸外国の保育内容や制度について講義する。保育の意義や原理、保育者の専門性について講義する。

**授業計画**

|      |  |
|------|--|
| 第1回  | オリエンテーション 「保育」という概念、養護と教育              |
| 第2回  | 子どもを取り巻く環境の変化 家庭環境や社会環境の変化、保育のニーズの多様化  |
| 第3回  | 保育の歴史と思想① 「子ども」の誕生と保育                  |
| 第4回  | 保育の歴史と思想② 世界における保育思想の変遷と歴史             |
| 第5回  | 保育の歴史と思想③ 日本における保育思想の変遷と歴史             |
| 第6回  | 「環境を通した保育」とは 遊びと保育                     |
| 第7回  | 保育者の専門性と役割 保育の質、子ども理解                  |
| 第8回  | 乳児期・幼児期の子どもの姿と保育の内容                    |
| 第9回  | 子どもの発達と保育の計画                           |
| 第10回 | 諸外国の保育内容 モンテッソーリ、シュタイナー、レッジョ・エミリア等     |
| 第11回 | 諸外国の保育制度とカリキュラム ニュージーランド、イギリス、スウェーデン等  |
| 第12回 | 保育実践と評価 記録を用いた評価方法（ポートフォリオ、ドキュメンテーション） |
| 第13回 | 子どもの安全・虐待・特別な配慮を必要とする子どもへの対応           |
| 第14回 | 日本の保育制度の現状と課題 待機児童の現状、子ども家庭庁、幼保一元化等    |
| 第15回 | 家庭・地域・小学校との連携 子育て支援、地域とのかわり、幼小接続等      |

**到達目標**

- ・保育に関する思想や歴史を学び、保育の基礎となる子ども観を理解することができる。
- ・保育者の専門性、保育の意義や目的を説明することができる。
- ・保育の現状を理解し、課題を指摘し考えることができる。

**履修上の注意**

- ・授業では、適宜、視聴覚教材を使用したりグループワークを実施したりすることで、体系的に学んでいく。
- ・積極的に授業に参加すること。教科書や資料を常に持参すること。

**予習・復習**

- ・予習：教科書の該当テーマに関連するページを通読し、疑問点やコメントを記す。わからない単語や概念については文献やインターネット等で確認しておく。
- ・復習：ノートや資料を読み直し、学んだ点と疑問点をまとめることで理解を深める。

**評価方法**

・受講態度（20%）、コメントペーパーやグループワークへの取り組み（30%）、課題レポート（50%）で評価を行い、総合評価 51 点以上を合格点とする。

**テキスト**

- ・教科書名：最新 保育原理〔第2版〕－わかりやすく保育の本質に迫る－  
著者名：島田ミチコ監修、上中修編著  
出版社名：教育情報出版  
出版年（ISBN）：2022年（978-4-909378-42-2）  
参考文献：保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説書